

複数回の手術により長期生存を得た 後腹膜脱分化型脂肪肉腫の1例

たか い きよ え やま もと てつ たに うら たか ひと
高 井 清 江 山 本 徹 谷 浦 隆 仁
いし とび かず なり た じま よし つぐ
石 飛 一 成 田 島 義 証

キーワード：後腹膜脂肪肉腫，脱分化型，再発，手術

要 旨

61歳女性。左後腹膜を主座とし左腎上極と脾・脾に接する後腹膜腫瘍および Stage II 横行結腸癌に対し，左腎・左副腎・脾合併脾体尾部切除+結腸亜全摘術を行った。術後病理で，後腹膜腫瘍は脱分化型脂肪肉腫であった。術後3ヶ月目のCT検査で，腫瘍摘出部背側に8cm大の脂肪織濃度域を認めたが，その後6年間変化なく経過した。術後7年目のCT検査にて，同腫瘍内に充実成分の出現と腫瘍の急速な増大を認めたため，腫瘍切除術を行った。その後，短期間で局所再発を繰り返すようになり，3回の腫瘍切除を追加したが，次第に局所制御不能となり，初回手術後10年10ヶ月で永眠された。

後腹膜脂肪肉腫は高率な局所再発に加えて組織学的悪性転化を来す予後不良な疾患である。本症例は脂肪肉腫の中でも悪性度の高い脱分化型脂肪肉腫であったが，初回の広範囲切除と再発時の積極的な腫瘍切除を施行したことで長期予後に繋がったと考えられた。

はじめに

脂肪肉腫は軟部組織に発生する非上皮性悪性腫瘍で，全身のあらゆる部位に発生する。外科的切除が治療の第一選択となるが，隣接する大血管や後腹膜臓器を巻き込み易いこと，また被膜周囲腫瘍浸潤による取り残しや手術操作に伴う脆弱な被膜の損傷などで完全切除が難しく，局所再発率が

高いのが特徴である。また，悪性転化もしばしばみられる。予後は組織型により様々であるが，脱分化型は局所再発や転移率が高く予後不良とされる^{1,2)}。

今回，後腹膜原発の脱分化型脂肪肉腫に対して広範囲切除と再発腫瘍の摘出術を繰り返すことで，約11年間の長期生存が得られた症例を経験したので報告する。

Kiyoe TAKAI et al.

島根大学医学部 消化器・総合外科

連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部 消化器・総合外科

症 例

症例：60代，女性